あかりの森プロジェクト

活動報告書

2024 annual activity report













CONTENTS

01	はじめに
02	環境に対する取り組み"えのすいeco" -新江ノ島水族館-
03	アニメ『未来からやってきた森』制作協賛 - 一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団 -
04	クマノミの育成、保全・復元を目指す - ハイアットリージェンシー瀬良垣アイランド沖縄 -
05	国民参加の森林づくり - 公益財団法人国土緑化推進機構 -
06	Newsweek日本版SDGsアワードに あかりの森プロジェクトがエントリー
07	まとめ



01.はじめに

100年先も自然を守り育むために

2025年1月、世界気象機関(WMO)は2024年の世界平均気温が、産業革命前の水準と比べて 1.55℃上回ったと発表しました。

これは、国連気候変動枠組条約第21回締約国会議(COP21)で採択された国際条約「パリ協定」で目標とされる、産業革命前のレベルと比べ「1.5℃」水準を単年で初めて超えたことになります。

国連のグテーレス事務総長は、WMOによる発表を「地球温暖化の冷徹な事実を改めて証明するものである」と評しました。しかし同時に「1.5℃を超えた年があっても長期目標が達成できないということではない。」とし、「最悪の気候災害を回避するためにリーダーたちは今すぐ行動しなければならない」と警鐘を鳴らしました。

日本においても、2024年の日本の平均気温は、平年を1.64℃上回り、統計を開始した1898年以降で過去最高となりました。また、世界各地でも異常気象が見られ、スペインでは豪雨、洪水に見舞われ、南アメリカの一部では長期的な干ばつが発生し、アメリカのカリフォルニア州ロサンゼルスでは強風と降雨不足で拡大する破壊的な山火事は、ニュースでも大きく取り上げられ記憶に新しいかと思います。

このような異常気象は、わたしたちの生活を脅かすにとどまらず、農作物への影響、ひいては生態系にも大きく影響を与えます。

気候変動や地球温暖化を食い止めるという目標を持つことは重要です。また、同時に次に起きる 異常気象などに対応する策を講じることも大切です。

現状に対する対応策と、今以上急激に地球温暖化が進んでしまわないようにする予防策のそれぞれについて考えねばなりません。

近年、SDGsに絡んだ防災グッズも多く開発・販売されています。起きてほしくない災害ではありますが、起こった時に備えて住み続けられるまちづくりを目指し、準備をしていきましょう。また、普段の暮らしの中でも環境保全のために取り組むことができます。照明をLEDに替えたり、再生可能エネルギーを多く供給している電力会社に切り替えること、海や森の環境に配慮した製品を選んで買う、プラスチックゴミを出さないように気を付けるなど、一つ一つは小さなことでも皆が取組むことで大きな動きとなるでしょう。

あかりの森プロジェクトは2024年度も、SDGsの目標7・13・14・15の達成に向け、会員の皆さまと共に取り組んでまいりました。

ここに活動報告書をまとめましたので、ぜひご一読ください。



あかりの森プロジェクト活動指針

- 1. 自然エネルギーの普及による二酸化炭素排出量の削減に努め、地球温暖化防止に取り組む
- 2. 海や陸の自然保護、生態系の保護に関する活動に積極的に取り組む
- 3. 様々な団体と連携し、豊かな自然を守り残していくことの大切さを 伝え、気候変動の緩和や影響軽減に関する啓発に取り組む

O2.新江ノ島水族館

環境に対する取り組み"えのすいeco"



絶滅が危惧される コツメカワウソ

新江ノ島水族館にいるコツメカワウソは、カワウソ類では最小種で、手足の爪が小さいことからその名が付けられています。その愛くるしい姿から世界中で人気が高いのですが、密輸や生息地の環境変化により数が減少、IUCN(国際自然保護連合)のレッドリストで「危急種(VU)」に指定されています。

2025年3月にあかりの森プロジェクトは「カワウソについて楽しく学ぼう!」というイベントを新江ノ島水族館にて開催いたしました。コツメカワウソの小さな手にタッチしたり、カワウソの生態について飼育員から話を聞き、参加者の皆さまはメモを取りながら熱心に聞き入っておられました。

新江ノ島水族館で、カワウソの魅力と ともに、カワウソが危機的状況にある こと、生態系保全の必要性を知っても らいたいです。



新江ノ島水族館 えのすいecoデーで掲出されたパネル

新江ノ島水族館では、生物に関する生態学(エコロジー)、そして環境を考える活動(エコアクション)という2つの側面に沿った独自の活動"えのすいeco"を2009年より取り組んでいます。

多くの個人・法人がこの趣旨に賛同し、えのすいecoサポーターとなり、活動をしています。

シナネンあかりの森プロジェクトは、2023年よりえのすいecoサポーターとなり、海の環境保全活動を行う新江ノ島水族館を支援しています。

えのすいecoの取組の一つに、月に1回、裸足で歩ける海岸を目指して新江ノ島水族館付近の砂浜のごみ拾いを行う、ビーチクリーンという活動があります。

2024年度は、6月・8月・10月・12月・2月と計5回、あかりの森プロジェクトもビーチクリーンに参加いたしました。

夏に参加したときは、海水浴シーズンで多くの食べ物のゴミがある のではと心配していましたが、特に目立ったのはタバコの吸い殻で した。





タバコには、多くの有害物質の残留物が含まれています。フィルターから溶け出した有害物質が川や海などに入り込み、生態系のバランスが崩れる可能性があります。

また、新江ノ島水族館のある相模湾ではウミガメも目撃されますが、近年問題となっているのが海を漂うレジ袋をウミガメが餌のクラゲと間違って食べてしまう事故です。

単に散乱したゴミというだけにとどまらず、陸・川・海の生態系に与える影響も深刻とされているのです。

えのすいecoデー1日で集まるゴミの量は、多いときで20kg以上にも及びます。

えのすいecoデーでは、ゴミ拾いに必要な手袋やトングは貸し出しがあるため、気軽にどなたでも手ぶらで訪れることができます。

ビーチで思い思いに貝殻を拾ってキーホルダーを作るビーチコーミングも同時開催されていますので、ぜひご家族、お友達とご一緒にご参加ください。

また、あかりの森プロジェクトでは2023年度より、コツメカワウソを展示・飼育している「カワウソ〜木漏れ日のオアシス〜」の展示スポンサーシップ契約を締結しています。

カワウソ展示コーナー前のモニターでは、あかりの森プロジェクト について、新江ノ島水族館公式キャラクターの"あわたん"、シナモ ロールとポポネンが動画で分かりやすく説明をしています。

新江ノ島水族館に行かれた際はぜひお立ち寄りください。

O3. 一般財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団

アニメ『未来からやってきた森』制作協賛

アファンの森財団では、創設者のC.W.ニコル氏が、荒廃した日本の森を再生することを目的に、1986年より飯綱山麓に位置する放置された里山(長野県上水内郡信濃町)で森の再生活動を始めたのをきっかけに、現在では様々な企業・団体・個人の支援のもと、森林保全活動を展開しています。

100年後の未来のために、地域本来の植生を回復させ、様々な生きものが共に暮らせるように荒廃した山林の森づくりを行っています。

あかりの森プロジェクトは、2023年10月よりアファンの森財団とオフィシャルスポンサー契約を締結し、森林生態系の回復や生物多様性の保全活動の支援を行っております。

2024年度は、アファンの森財団が自然再生の重要さを伝えるため制作した100年後の森を描くショートアニメ『未来からやってきた森』へ協賛をいたしました。

本作品は、できる限り自然のサイクルに則って100年後の森の姿を描き出し、未来を信じることの大切さ、自然環境の重要さを伝えたいという想いで制作されました。

2024年7月6日(土)には、ショートアニメの記念試写会が開催されあかりの森プロジェクトも参加いたしました。

約15分のアニメ上映をはじめ、テーマ曲「森の祈り」を歌われているYaeさんのミニライブ、記念シンポジウムを通じ、改めてこのような活動を広めていく意義を深く感じました。



アファンの森財団オフィシャルWEBサイト内 アニメ特設ページ https://afan.or.jp/tfftf/



ー般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団 創設者 C.W.ニコル氏



アニメ制作にあたって

ここ数年、温暖化による気候の変化 は、われわれの予測以上に加速し、世 界中で自然災害が多発しています。

WWFの発表では、ここ40年の間で、 地球上の野生生物の数が約60%減って しまったそうです。このままだと30年 後には30億人の難民が出ると言われて います。

森の未来は見ることはできませんが、 アニメーションなら描くことができます。100年後の森をできるだけリアルな姿で描き出し、ニコルの想いを世界中の人へ届けたいと考えております。この甦ったアファンの森は、気候変動の影響がますます大きくなり、自然環境の重要さを再認識する必要がある今日、日本のみならず世界の人々にとって、自然再生の大切さを知る重要な場

一般財団法人C.W.ニコル・アファンの 森財団 理事長 森田いづみ氏

(アファンの森財団HPより抜粋)

所になると確信しています。



アファンの森に生息している動物の1種「フクロウ」

〇4. 瀬良垣アイランド 沖縄

クマノミの育成、保全・復元を目指す



海の温暖化が カクレクマノミに与える影響

近年世界的に個体数が減少しているといわれるカクレクマノミ。石垣島(や宮古島などの先島諸島に比べ沖縄本島では岸に近い礁地に生息する個体数が著しく少ないことが報告されています。

沖縄科学技術大学院大学(OIST)の海洋気候変動ユニットでは、クマノミの生態を調査。地球温暖化による気候変動が、海の生態系にどのような影響を与えるのか研究しています。

地球温暖化は海水温度を上昇させ、海中に二酸化炭素が溶け込むことで海洋酸性化という現象も引き起こします。

クマノミは身に危険が生じると特殊な 化学物質を出して仲間に危険を知らせ ますが、海中の二酸化炭素濃度が高い とこの化学物質に対して反応すること ができず、敵に捕食される確率が高く なります。

また、OISTの研究によると、ふ化した 段階から海水温度を上昇は遺伝子に影響を与え、成長スピードは早いものの 骨密度が低く軟弱な個体に成長する可 能性が高くなり、これも個体数の減少 に繋がっている可能性もあります。

(参照:令和6年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業「瀬良垣島・クマノミ育成プロジェクト」より一部抜粋)



沖縄本島の恩納村瀬良垣島全体がリゾートとなっているハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄は、SDGs未来都市である恩 納村に位置し、2021年3月には「おきなわSDGsパートナー」にも登 録されたリゾートホテルです。

ホテル内でのレストランではプラスチックストローの代わりに、パイナップルの葉の繊維で作られた天然素材で生分解性の環境にも配慮されたストローを導入し、食品残渣は地元業者へ委託し肥料化するなど多くの取組を実施しています。

2021年から同ホテルでは、沖縄科学技術大学院大学(OIST)の海洋気候変動ユニットの監修のもと、周辺のカクレクマノミの育成と海洋での保全・復元を目的とした「瀬良垣島・クマノミ育成プロジェクト」を行っています。

OISTのマリン・サイエンス・ステーションにて飼育したクマノミを ふ化させ、その稚魚を周辺の海に放流し定着することを一つの目標 としていましたが、捕食されたりうまく住処となるイソギンチャク になかなか定着することができませんでした。

そこで現在は、イソギンチャクに着目し「ハタゴイソギンチャクの 自然復帰における研究」を開始し、まだほとんど解明されていない ハタゴイソギンチャクの生態や生殖時期など未知の領域への挑戦に 漕ぎ出したところだそうです。





OIST マリン・サイエンス・ステーション

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄

ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄では、沖縄の海 のことやクマノミの生態系について気軽に学べるように、潜ってクマノミを観察するアクティビティを行っています。

こどもから大人まで、楽しくクイズなどをまじえながら学ぶことができ、そのあとに実際に海に入っていろいろな生きものを観察することができます。

あかりの森プロジェクト会員へは特別宿泊プランの提供や、ホテルが実施する一部アクティビティの参加補助を行っています。



ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄 アクティビティ「クマノミと瀬良垣島の海を学ぼう」

O5. **公益財団法人** 国土緑化推進機構

国民参加の森林づくり

国土緑化運動を推進するため、都道府県緑化推進委員会と連携を保ちつつ、募金運動の体制整備を図り、多様な募金活動を展開するとともに、「緑の募金事業」や「緑と水の森林ファンド事業」等を通じて国民参加の森林づくりを推進しています。

(参照:公益財団法人 国土緑化推進機構 ウェブサイト)

あかりの森プロジェクトは、引き続き、国土緑化推進機構の「緑の募金」を 通じて「森づくり・人づくり」活動を支援しています。



06. Newsweek日本版SDGsアワードに あかりの森プロジェクトがエントリー

このたびNewsweek日本版「SDGsアワード 2024」にあかりの森プロジェクトの取組が掲載されました。 国際ニュース週刊誌『Newsweek』は米国にて1933年に創刊。その日本版として86年に創刊されて以来、『ニューズウィーク日本版』は、世界のニュースを独自の切り口で伝えることで、良質な情報と洞察力ある視点とを提供するメディアとして一目置かれてきました。Newsweek日本版「SDGsアワード」の実施は今回が2回目となります。

化学メーカーから酒造会社、ホテル、造船会社、飲食チェーンまで、計68社が参画いたしました。企業規模もSDGsに取り組む体制もさまざまな日本各地の企業です。



あかりの森プロジェクトからは新江ノ島水族館への支援と、カクレクマノミ の育成プロジェクトへの支援についての記事を掲載。

惜しくも受賞は逃しましたが、授賞式・懇親会では業界の垣根を越えてさま

ざまな取組を実施する企業と意見交換・情報交換の場を持つことが出来、今後のあかりの森プロジェクトの活動にとって、学ぶことも多くあり大変有意義な機会となりました。



■ 記事掲載サイト

- ・<u>相模湾の海洋環境を守る「未来への挑戦」―</u>シナネンあかりの森プロジェクト×新江ノ島水 族館
- ・<u>沖縄の美しい海を未来へ―シナネンが支える</u>カクレクマノミの育成

07. まとめ

あかりの森プロジェクトは、2020年に「100年先の自然を守り育む」ことを目標に発足してから、今年で5年目を迎えました。

開始以来、皆さまからの電気料金の一部とシナネンの自社拠出分で、さまざまな環境保全活動を支えています。

2024年度も2023年度に引き続き、一般財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団、新江ノ島水族館、ハイアット リージェンシー 瀬良垣アイランド 沖縄、国土緑化推進機構へ支援を実施いたしました。

支援先からは、毎年1年間の進捗や今後の活動計画など報告をいただいておりますが、いずれも見通しがさーっと霧の 晴れたように明るいわけではなく、環境問題が一朝一夕には解決できないことを感じています。

時間をかけて壊れてしまったものの修復は、同じように時間がかかるし簡単ではありません。

しかし、あきらめるのではなく、少しずつでも回復させ本来の姿を取り戻そうと毎日懸命に取り組んでいる支援先と、わたしたちあかりの森プロジェクトも手を取り合ってともに「100年先の自然を守り育む」ため、活動を続けていきます。

今後とも皆さまのご賛同・ご支援を賜りたく、お願い申し上げます。

あかりの森プロジェクト事務局